

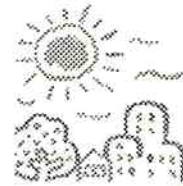
# 市政研究所だより NO,13

豊中市政研究所 TIMR (The Toyonaka Institute for Municipal Research)

〒561-0802 大阪府豊中市曾根東町3-7-1

TEL:06 (6862) 2290 FAX:06 (6862) 2292

ホームページ: <http://www.tect.zaq.ne.jp/timr> E-mail: [timr@tect.zaq.ne.jp](mailto:timr@tect.zaq.ne.jp)



MENU	
■千里NT調査研究の中間報告	… 1
■研究員レポート	… 2,3
■豊中市役所物語	… 3,4
■事務局から	… 5,6
■機関誌 Vol.4のご案内	… 6

## ◆千里ニュータウン調査研究

### 中間報告と意見交換会を開催

2月18日の日曜日、千里公民館にて千里ニュータウン調査研究の「中間報告と意見交換会」を開催しました。

当日は、71名もの参加者（一般参加者53名、事務局・研究者・専門家18名）が集まり、事務局からの中間報告の後、各テーブルに分かれて意見交換をしました。

この「中間報告と意見交換会」のねらいは、研究作業の過程で我々なりにアンケート・ヒアリング調査結果を分析・解釈した内容を不特定多数の方と意見交換することを通して、調査結果の確認や、千里ニュータウンの抱える状況の具体的なイメージを参加者と共同作業でつかむことです。

調査研究の方法としては、今までにない試みで、試行錯誤の中での開催でした。

当日は、これまで聞かれなかった意見が聴かれ、千里ニュータウンのまちの状況や住民の意識の変化がうかがえました。

そのいくつかを紹介すると…

「千里ニュータウンを寝るだけのまちと思ってきた人達の目が、最近は地域に向いてきた。」

「集合住宅の建替えは、周囲とのまちづくりの観点が必要と痛感している。」

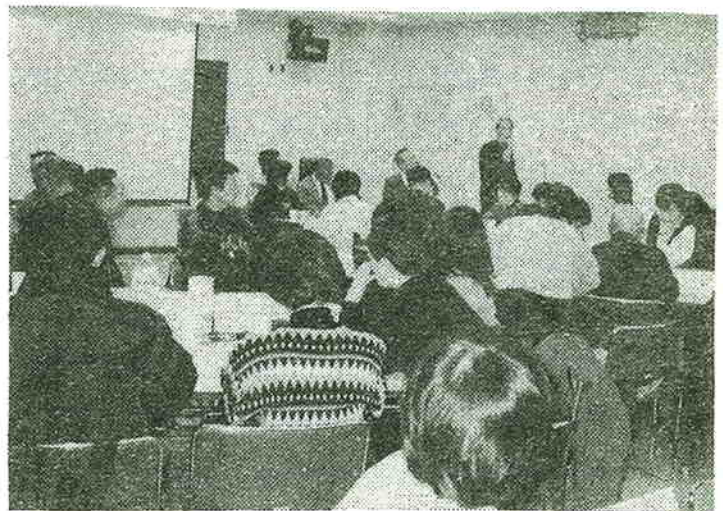
「近隣センターの業種は、地権者まかせでなく地域住民も関わる必要がある。」

「千里ニュータウン独自の様々な規制があり、それを住民も支持してきたが、これからは、それを見直して、店舗などが自由に回転できるシステムが必要。」

今後のまちづくりに向けて…

「日頃、各々の立場・テーマで検討や活動をしていることが、千里ニュータウン全体の中でどのような関係にあるか確認したり意見交換をする必要を感じていた」という趣旨の発言が相次ぎました。今回は、その初めての機会となったようです。また、「このような集まりを今後も続けていこう」「今日のような集まりは我々住民自ら開くべき」と、発言が続きました。

13年度(2001年度)には、新千里東町住区で社



会実験も予定されています。千里ニュータウンでの住民主導のまちづくりへと熟していくことを期待します。

#### 具体的検討には各主体の連携が不可欠

今回の現状や課題の把握を通して、豊中市の住民と行政の協働の芽が見えてきましたが、平成13年度(2001年度)は一步進んで、解決方法の具体的検討に入ります。具体的な検討には、関係する当事者がもれなく連携することが不可欠です。

例えば、近隣センターの検討を進めるには、事業者、住民、市・府の担当部署、(財)千里センターなどがこれにあたります。

複数の行政区域にまたがるのが千里ニュータウンのまちづくりを難しくしている点の一つであることも従来から報告されていますが、そのコーディネートに関する結論も、現在まで持ち越されています。

実現に向けた検討は、各々の主体の役割を明らかにしていく作業でもあります。

## IT を活かした産業振興とよなかモデルを！

前号では、住宅都市「豊中」に適した新しい成長産業を創出し、市内の雇用の確保と、経済活性化を積極的に図ることにより、安定した財源を確保していく必要があること述べました。今回は研究会での検討結果を少し報告します。

豊中市における新産業振興としては、具体的には、IT を活かしたベンチャー・SOHO 産業の振興が必要との結論に達しました。その主な理由は、①無公害（無臭、無騒音、無振動）、②職住近接型産業（自宅、町中）、③労働市場を開放（障害者・高齢者・女性が就業可能）、④低開業コスト（最低数百万円ほどから開業できる）、⑤既存産業の支援（IT は応用産業）などです。また、豊中の地域特性からいえば、①ハイタレントな住民が多く住み、②近くに大阪大学などの高等教育機関があり、③空港、新幹線、高速道路へのアクセスがよい面も、知識集約型産業である IT 産業立地に適していると言えます。

具体的施策としては、まずは、①リサーチを兼ねて、ベンチャー・SOHO 産業支援、交流のためのインキュベーション施設を実験的に立ち上げ、あわせて、②IT 産業集積を図るため、豊中市が全国に誇れる地図情報システム（GIS）を用いた（仮）とよなか GIS 応用ソフト開発コンテストを行う。優秀者に対しては、インキュベーション施設への優先入居も考えられます。既に施設を設置し、事業を行っている川崎市、相模原市、和歌山市、大阪市、三鷹市などの事例研究からは、行政のスタンスはあくまで支援、民間が担えるところは民間に任すということだと感じました。

じっくり考えることは大切ですが、やる前にじっくり考えすぎるとそれが時代遅れになってしまいます。やりながら次の手を考えることがあってもよいのではないのでしょうか。ドッグイヤーと呼ばれる技術革新の時代、行政にもテンポの早い決断及び行動が求められています。

（太原）

## まちの中心で商業を営む商業者に何が期待されているのか？

今年度の私が担当する自主研究は、豊中都心ゾーンを舞台に、地域社会に求められる生活支援システムについて検討するというものですが、まちの中心で商業を営む商業者がそのシステムの中で期待されることは何か？又はほとんど期待されていないのか？というのが、テーマの核心部です。

都心ゾーンに隣接する地域の同年代の老若男女グループごとに合計8グループの皆さんにグループインタビューを重ねました。日頃の買物、外出を通して感じていることをざっくばらんに聞かせてもらうというのが趣旨です。

買い物に全くこだわりのない人、自分の高齢化に備えて10年前から買い物の方法を考えてきた人、中心市街地と近所の商店街と国道沿いの量販店を使い分けている人、まちに全く興味のない人、かつて馴染みであった店に今は行かなくなった理由…などなど、様々な考えを聞くことができました。

大まかにまとめると、商業者に「質の高い商業を目指して欲しい」という意見と、まちの中心で一日中商売をしている商業者に対して、「まちを見守って欲しい」という意見にまとめられそうです。

その詳しい中身は、近日中に完成予定の報告書にて。

（藤家）

## ごみ問題は何から知る？

前号で述べたアンケート調査で、「日頃見るメディア」と、「ごみや環境について見るメディア」に関する質問をしました。それぞれ、「(1) よく見るもの (複数回答)」「(2) (1) の中で、最もよく見るもの (単数回答)」について調べたところ、次のような結果が出ました。

日頃見るメディア					
(1)よく見るもの	①テレビ 29.5%	②新聞 27.3%	③市の広報 14.0%	④雑誌 11.1%	⑤回覧版 5.8%
(2) (1)の中で、最もよく見るもの	①テレビ 58.0%	②新聞 31.4%	③インターネット 1.7%	④CATV 1.0%	⑤雑誌 0.4%
ごみや環境について見るメディア					
(1)よく見るもの	①新聞 29.3%	②市の広報 26.9%	③テレビ 25.9%	④回覧版 8.9%	⑤雑誌等 3.3%
(2) (1)の中で、最もよく見るもの	①新聞 27.6%	②市の広報 27.4%	③テレビ 27.0%	④回覧版 2.3%	⑤その他 0.7%

「日頃見るメディア」は、(1) (2) 双方で「テレビ」「新聞」がいずれも1・2番目にきており、特に「最もよく見るもの」で圧倒的な比率を示しています。

一方、「ごみや環境について見るメディア」では(1) (2) 双方で「市の広報」が2番目にきていて、「テレビ」「新聞」とともによく利用されていることが分ります。また、「回覧版」「タウン誌等」もあり、「日頃見るメディア」に比べるとローカルなメディアが利用されていることが分ります。

詳細については、後日発行する報告書をご覧ください。

(村上)

## 豊中市役所物語 最終回

「豊中市役所物語」…一人のOB職員の歩みとその回想をとおして、新たな激動の時代で奮闘する現役世代に向けてエールをおくるコーナーです。(最終回)

### 財政難を乗り越え頑張る職員

昭和50年代は私にとっても激動の年になる。49年5月に竹内市長から下村市長にバトンタッチされるも、48年10月の石油ショックの影響で諸物価が大幅に高騰した。そのため市税収入は大幅に増加したものの、支出も爆発的に増えた。49年9月には財政審議会を発足させ、歳入確保・歳出抑制など審議され51年12月に答申される。しかし、50年度の実質収支は18億3千万円の赤字(歳入総額=573億円)になり、それこそ赤字債権団体に転落の危機に直面した。同年12月に財政再建のため急遽市長直轄の「行財政調査室」が設置され、各種対策

を打ち出し、市民会館大ホールで「市財政と市民生活を守る市民集会」を開き、市民にも協力を呼びかけた。赤字は55年度まで続き、ピーク時の赤字は52年度で20億9400万円にもなったが、市は“教育と福祉は後退させない”という姿勢を貫いた。

児童生徒の急増は50年度以降も続いており、10年間に12小学校、4中学校、2幼稚園、6保育所を新設する。この他にも65歳以上の老人医療費の無料化、老人センター3箇所、医療保険センター(看護学校・休日急病診療所)等を開所させる。

(次頁に続く)



51年5月になぜか広報課が自治振興課に変わり仕事内容が一変する。50年北急緑地公園駅の開設を契機として、農家がマンション建設に乗り出す。マンション問題の調整するセクションがなく、自治振興課振興係が担当せざるを得なくなる。以後、毎日のように建築確認の合議が来て、自治会に説明に行ってもらっても地元で紛糾(日照、風害、景観等)し調整に悩む。業者は建ぺい率、容積率一杯のプランで地元説明したため、もめて自治振興も入って夜中まで話し合ってもらったことがたびたびあった。横浜市のように要綱作れ、容積規制(容積規制)、高さ規制(千里NT)をさせろと検討して上司にあげるが無視され、57年建築環境調整室ができるまで続く。労多くて益少ない仕事だった。

また、52年秋には市長と自治会長との懇談会が開かれ、会長から地域ごとの懇談会を開いてほしいと要望があった。これも自治振興課が担当で、当初は市内を4ブロックに分けて4回開催する。市長、助役をはじめ特別職、全部長が出席し「地域懇談会」として行うが、苦情の受けたまわりの場となった。最盛期には年10回に広げたが、懇談会は市長の人気取りだと影で相当いわれ、各部局から総スカンをくった。しかし、歴代市長は形を変えていまだに続けている。

56年5月に19年間いた広報・自治振興課を離れて「完全参加と平等」をテーマとする国際障害者年を担当するセクションに異動する。市長を本部長に各部長が本部員の国際障害者年推進本部を設置した。施設整備、社会参加等の4部会をおき各部会では、1年余りしかない期間に対策を講じてもらうことになる。事務局は当初私一人だったが、一人増員になり、各部会の調整、起案、予算まで受け持った。7月には急遽「障害者対策モデル都市」の指定を受け国・府・市が各1000万円を負担し、2年で6000万円の事業計画を考えるが、これだけの予算ではどうにもならない。市民組織の障害者対策推進委員会の設置もし、事業計画をつくり審議してもらわなければならない。各部会には早急に事業計画を

立てていただいた。建築物の段差実態調査に基づく改修費、道路公園についても整備費を、障害者の日のイベント、「福祉のまちづくりのための環境整備要綱」制定等だ。これらの計画は本部会で承認され、推進委員会にもかけ別枠予算で各種の取組をさせていただいた。わずか1年3カ月だったが充実感を味わった。

2年余りで58年5月自治振興室に舞戻す。同室は広報・公聴、自治会担当以外に女性政策、非核平和都市、憲法問題を担当することになる。女性問題では、女性問題担当主幹(当初=婦人担当)と共に市民も参加する実行委員会をつくり119の提言をまとめ、審議会の設置も手掛ける。次年度からは、予算書にも女性問題推進費、名称も従来の婦人から女性に変更する。全国初めてのことだった。また、市議会でも宣言文で紛糾し翌日の未明に可決承認された「非核平和都市宣言」は58年10月15日市制施行記念日だった。

また、市制施行50周年を間近に控え何かやろうということになる。同室は庁内の補佐、係長、一般職員30人余(20代から30代)で「市制50周年プロジェクト」(愛称=コメット)を59年5月立ち上げる。事務・技術系、消防職も加わる。市長、助役、各部長の了解を得て、時間外に活動を始める。各自が得意分野に分かれ、自由な発想でアイデアをだし、どのようなプロセスでプランづくりをするか、競争になる。1チーム5人程で、週2~3回の予定が4回も5回もその上、休日にも頑張り、他の自治体の調査にも出かける。5月から始め10月にはその成果をまとめる。最終成果作品は60余項目にのぼり、B4版で厚さ10頁以上になる。11月市長、助役等に報告するも、素っ気ない反応だった。翌々年の61年3月市議会で50周年記念事業について質問が出るや、庁内プロジェクトが編成され、期間も少なくコメットの成果作品の多くが使われ場の目を見る。この後は、なにかとプロジェクトを組むようになるが、私は若い職員のエネルギーをもっと活用すべきだと思う。

30年代から50年代にかけての一職員の歩みを5回にわたって雑文で記した。良き上司と幅広い良き仲間に出会ったからこそ、それなりに仕事に取り組めたのではないかと感謝の気持ちでいっぱいだ。今まさに豊中市、市職員にとっても激動期を迎えている。どうか市民のため更なる奮闘を願わねばならない。

(K)

# 事務局から

## ◆平成 12(2000)年度の活動一覧

	上 旬	中 旬	下 旬
4月	市政研究所人事異動発令	■第1回理事会(事業計画、予算承認)	■第1回専門委員会
5月	■第2回専門委員会	●データバンク通信・No.11発行(4・5月合併号)	■第3回専門委員会
6月	▼市政研究所だより第10号発行	■市政研究所平成11年度監査 ■第2回理事会(11年度決算、事業報告、12年度調査研究テーマ、機関誌特集テーマ) ●データバンク通信・No.12発行	□第1回政策研究所連絡会
7月		●データバンク通信・No.13発行	□日本計画行政学会関西支部総会出席(大阪)
8月	◆調査研究C班研究会(第1回) □大阪自治センター視察(来所)	□地方の税・財源フォーラム出席(兵庫) ●データバンク通信・No.14発行	▼財政問題連続講座(1~3回)開催 □マッセ・エコマネーセミナー出席(大阪)
9月		●データバンク通信・No.15発行 ▼市政研究所だより第11号発行	□日本計画行政学会出席(広島) ◆調査研究C班研究会(第2回)
10月	■理事懇談会(総合計画について) ◆市政策検討委(11年度研究報告) ◆千里NT共同研究会(第1回)	◆調査研究C班研究会(第3回) ●データバンク通信・No.16発行	▼講演会「介護保険と地方自治」開催
11月	□廃棄物学会出席(北海道) ◆調査研究A班研究会(第1回)	●データバンク通信・No.17発行 ▼市政研究セミナー開催(第1回)	◆調査研究B班研究会(第1回) ◆調査研究A班研究会(第2回) □都市シンクタンク等交流会議出席(東京) ▼市政研究セミナー開催(第2回)
12月	▼市政研究セミナー開催(第3回) ◆千里NT共同研究(ヒアリング調査)	●データバンク通信・No.18発行 ◆千里NT共同研究(ヒアリング調査)	◆調査研究A班研究会(第3回)
1月	▼市政研究所だより第12号発行	◆千里NT共同研究会(第2回) ◆調査研究B班研究会(第2回) ◆調査研究A班研究会(第4回)	●データバンク通信・No.19発行 ◆千里NT共同研究会(第3回)
2月	◆調査研究B班研究会(第3回) □地域経済研究公開フォーラム出席(大阪)	■第4回専門委員会 ●データバンク通信・No.20発行 ◆千里NT共同研究会(意見交換会) ◆調査研究A班研究会(第5回)	□わかやまSOHOヴィレッジ視察 □川崎市・相模原市視察 ◆千里NT共同研究会(第4回) ◆調査研究C班研究会(第4回)
3月		◆調査研究A班研究会(第6回) □日本NPO学会出席(京都)	▼機関誌第4号発行 ▼市政研究所だより第13号発行 ●データバンク通信・No.21発行 ◆調査研究C班研究会(第5回) □多摩・高蔵寺NT視察

[備考]

- ：理事会等
- ◆：調査研究事業
- ▼：広報・出版事業
- ：データバンク事業
- ：その他

「調査研究テーマ」

- ◆調査研究A班：「豊中市における歳入確保方策について」  
—新産業創出支援・振興策を中心に— (太原)
- ◆調査研究B班：「地域社会に求められる生活支援システムの展望」  
—豊中都市ゾーンを対象に— (藤家)
- ◆調査研究C班：「廃棄物に関する意識・行動調査」  
—ライフスタイルの視点から— (村上)
- ◆千里NT共同研究：「高齢社会を迎えた千里ニュータウンで  
生活を支えるシステムの再構築」  
(豊中市と豊中市政研究所)
- ◆マッセ共同研究：「環境共生型社会の実現」(村上) 研究会23回出席

## ◆人材公募の研究員

市政研究所だよりNO.10で研究所では福祉・保険分野（社会保障専攻）の研究員がほしいと書いた。特別会計（企業会計を除く）を入れると市予算の1/2以上が福祉・保険部門を占めており、今後、少子・高齢社会が進むとその予算は増加の一途をたどる。

一方で、地方分権によりこの分野では、地域特性を踏まえた独自性が求められる。自治体間の競争が激化し、勝ち抜き戦の時代を迎える。当該部門は毎日のルーチンワークで手一杯。問題意識はあるが、異動には手を挙げにくいところだった。

総務部は1月に「庁内人材公募」を初めて実施、対象職場は市政研究所という通知が来た。1月末締切で、人事課に直接申し込むという。応募者は事務・技術系だけでなく介護、教育、消防系の人も含め7人だった。4月には初の職員公募の研究員が誕生する。

研究所では職員に対して研究所発のホームページ・研究所だより等PRもしているが、どんな人が来てくれるか、どんな問題意識をもっているか楽しみだ。

なお、このような庁内人材公募制度の枠を広げ、若い職員のやる気を引き出すことも必要だと思う。（K）

## ◆手作りって大変！

丹後あじわいの郷で、パンとバター作りにチャレンジして来ました。パンは、生地を具を包み込み、形を整えるだけでしたが、粘土遊びみたいで、楽しいものでした。バター作りは、牛乳を入れたビンを、ひたすらシャカシャカと振りつづけるだけなんです。しばらくすると、「あら、不思議！」。バターらしき固まりが出来てきます。焼きたてのパンにつけるバターの味は格別でした。けれども、腕の筋肉痛を思うと、朝のトーストに手作りバターは、夢で終わりそうです。（M）

## ◆春を満喫

母と中国・広州へ行ってきました。広州は春真っ盛り。土色の崩れそうなアパートと立派な高層マンション、外資系企業のビルのジャングルの中に、樹齢何百年もあるかという樹々が顔をのぞかせ、鮮やかな新緑で春の到来を告げています。市の花の真っ赤な紅綿が街中に咲き乱れ、美しいこと。広州桜（羊蹄花）も淡い桃色の花を咲かせています。恋人に花を贈るのが流行で、ライトアップされた川沿いでは子どもが花を売り歩っていました。そして春は結婚シーズン。色とりどりの花で車を飾り立て、いざ出発（新婚旅行先は主に上海や香港だそうです）。

一足先に春を満喫する旅でした。（Y）

## 機関誌『TOYONAKAビジョン22』

### 第4号

#### ○特集 危機に直面する都市財政再生へのシナリオ

—経済低成長下における自治体経営のあり方—

タイトル

#### 特集論文

経済不況と地方財政

行財政改革と政策評価

都市圏の自治体と地方交付税

郊外自治体における財政再建のための新産業創出支援戦略

自治体における福祉行政運営の一手法 —英国社会サービスの業績指標を例に—

#### トピックス

都市新インフラ戦略とPFI

泉大津市松之浜駅東地区再開発事業 —再開発ビル公益施設の運営をPFI方式で—

住民主体の総合的な在宅ケアシステムのあり方と医療費抑制効果

—宇部市退院情報連絡システム構築の経緯をとおして—

財政のアカウンタビリティへの試み —財政問題連続講座を通じて—

#### 講演録

介護保険と地方自治

おめでとうございます！

いよいよ**4月発行!!**

執筆者（敬称略）

米原淳七郎

跡田直澄

林 宏昭

小長谷一之

長澤紀美子

大久保富夫

藤田忠夫・滝川洋子

田中啓二

池田省三